

平和の訴え 世界に発信へ

広島大と平和文化センター 協定を締結



協定を調印し、握手する
越智光夫(左)と小溝泰義(右)理事長

広島大と広島平和文化センター(広島市中区)は12日、包括的連携協定を結んだ。原爆被害の記憶を継承し、平和のメッセージを広く発信するのを目的に、調査や研究、教育などの分野で協力を進める。

東千田キャンパス(中区)で調印式があり、越智光夫学長と小溝泰義理事長が協定書に署名した。小溝理事長は「大学の見識やネットワークを活用すれば、より効果的に、国際社会へ私たちのメッセージを発信でき

る」と強調。越智学長は「全学生に平和について考える

機会を提供したい。被爆の実態を後世に伝える一助になれば」と述べた。協定書によると、教育・研修プログラムの企画、被爆の実態・平和構築の情報発信、センターの活動の活性化など5項目で連携する



る。例えば、センターが管理する原爆資料館(同区)に各国から届くメッセージの翻訳作業に広島大が協力する。それぞれ所有する被爆資料については、共有する取り組みを検討する。
(長久喜佐)

朝日 (29)

「平和資料館、第4のキャンパス」

広島大、平和文化センターと協定



包括連携に調印し、握手をする広島平和文化センターの小溝泰義理事長(右)と広島大の越智光夫学長(左)広島市中区

被爆の実相を連携して国内外に広めるため、広島大(東広島市)と、広島平和記念資料館(広島市中区)を運営する広島平和文化センターは12日、包括連携協

定に調印した。ともに被爆・平和関連の調査や研究に取り組み、学生の平和教育を拡充するといふ。越智光夫学長と広島平和文化センターの小溝泰義理事長が協定書に署名後、シンポジウムを開催。木原康樹副学長は資料館を東広島、霞、東千田に続く「第4のキャンパス」と位置づけ、平和教育を抜本的に改

革すると説明した。神谷研二副学長は、被爆資料のデジタル化やアーカイフ化を共同で進め、資料の再評価につながる取り組みに期待を寄せた。

資料館の志賀賢治館長は被爆資料の劣化対策や、多言語での発信などが急務とし「学術機関からの支援を得て、調査研究活動を強化していきたい」と述べた。
(岡本玄)

毎日 (26)

広島大×広島平和文化センター

原爆被害世界へ 協定結ぶ

原爆資料館を運営する広島平和文化センター(中区)と広島大(東広島市)は12日、包括的連携協定を結んだ。原爆被害を世界に伝え、平和を実現するため、学術調査や研究を連携して実施するという。

中区でこの日、調印式が行われた。記者会見で小溝泰義・同センター理事長は「世の中が非常に閉鎖的だからこそ、違いを理解しながら対話し、共通価値を目指すという平和の基盤作りが不可欠だ」と意義を強調した。

越智光夫・広島大学長は「平和に対する意識と考える機会を学生に提供し、被爆の実相を継承するセンターの取り組みの一助になってほしい」と話した。

広島大は2014年から資料館に学生を派遣するなどしており、今回の協定でさらに連携の強化を図る。学生研究などにあたるとい

【竹内麻子】

読売 (31)

平和文化センターと広島大が連携協定締結

広島大と広島平和記念資料館などを運営する広島平和文化センターは12日、教育、研究、情報発信などを進めるための包括的な連携協定を結んだ。両者は2013年度から、文部科学省の事業で被爆証言ビデオのテキスト化などで協力を進めてきた。協定により、広島の学生を対象とした平和教育、同資料館の資料収集の強化や共同研究などでさらなる連携を深める狙い。

広大東千田キャンパス(広島市中区)の東千田未来

創生センターで調印式が行われ、広島平和文化センターの小溝泰義理事長と広島の越智光夫学長が協定に調印した。小溝理事長は「これまで進めてきた連携をさらに発展させていきたい」と述べ、越智学長も「すべての学生に、平和について考える機会を提供し、被爆を後世に継承する取り組みの一助になれば」と述べた。

協定の締結を記念したシンポジウムも開かれ、広島平和記念資料館の志賀賢治館長らが講演。劣化が激しい資料の保存や海外に散らばる写真資料の収集などを今後の課題に挙げた。